

2022 年夏季語学留学/オタゴ大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

教科書の内容がディスカッション、リスニング、文法、リーディングの4つの技能を鍛えることができるようになっており、基本的には教科書通りに進んだのでその4つの技能を平等に学びました。

オールイングリッシュ。一つのお題をパートナーと英語で話し合う。

授業は週5の大体15:00までで週に3回ニュージーランドの文化を学ぶ授業がありました。また1日の最後の授業はILCとCSという授業がありILCはボードゲーム、読書、映画鑑賞など好きなことをしていい時間でした。CSはコンピューターを使ってエッセイを書いていました。進め方は1人の先生が基本的に文法をはじめとした全てを教えてもらっていました。

文法授業を中心にしつつ会話の練習も頻繁に行う授業だった。そのほかにも自習もありそこでは自分に足りないスキルの練習ができた。

オールイングリッシュで、ペアワークが多く、教科書はインターネットからダウンロードした教材で各自のパソコンからアクセスする。1日に5時間、50分授業で、クラスのレベルは全部で四つある。クラスにはほとんど日本人の大学生しかいない。まれにブラジル人や中国人などの大人の人もある。リスニング、ライティング、スピーキングがメイン

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

8人中1人が中国出身。その他7人が日本出身。

20名ほど。8割が日本人だった。ブラジルからの留学生がいた。

日本人13、オランダ人1人

クラスによる。中間レベルのクラスで20人程度。あつまる大学の種類によると思われる。日本人は98%を占める。留学生はブラジル人や、中国人がいた。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

関西外大の授業と大差ありませんでした。

明るかった。

クラスが少人数なこともあり緩く和気あいあいとした雰囲気で授業を行っていました。

質問が多かったり、会話が多かったりと活発だった。

東大生や小樽大学生、宮崎国際大学生がいた。みんな大まかに英語でのコミュニケーションが取れるため、授業の質は必然的に濃かった。また、クラスの雰囲気もワイワイしていて楽しい雰囲気だった。日本との授業の差異はあまりなかった。ただ、日本のように堅苦しくなかった。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

アカデミックエッセイの書き方とその練習です。関西外大短期大学部1年夏季休暇現在、アカデミックエッセイの書き方はきちんと教わっていません。そしてその練習もしていないので、私にとってとても参考になりました。

住んでる家について。将来について

エッセイの書き進め方。3553 の法則や、トピックセンテンスの書き方、意見の書き方などを詳しく教えてもらいました。
ニュージーランドの文化についての授業
文法の練習で、過去形と現在完了形、過去完了形の細かな使い方や使い分けを教えてもらった。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。
わからない単語が出た際はその意味をメモして暗記できるようにしました。
周りとの意見が違ってても自分の意見を英語で先生やクラスメイトに伝えること。
英語で考えること
スピーキングが特に苦手だった為、クラスメイトがよく使う単語や、話し方などをよく盗んで真似していた。とにかく語順を気にせずに話したりしていた。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
1人	ニュージーランド	バス	15-30分
0人		バス	15-30分
1人	外大生	バス	45-60分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
机、椅子、ベッド、ラック、手元灯	衣類、常備薬、電子機器類
ベッド、机	ドライヤー、服
机、ベッド、小さめのダンス、ハンガー、鏡	シャンプー、リンス、ボディソープ、水筒
ヒーター、ベッド、机、椅子	シャンプー
充電プラグ、ベッド、ヒーター、机、ライト	服、ドライヤー、カイロ、シャンプー類、洗濯袋、洗顔、歯ブラシ、化粧水、化粧品、プライベート鞆、薬、傘、充電器、モバイルバッテリー、生理用品

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。
鍵をかける習慣がないこと
シャワー室の小ささ
食事、睡眠の時間、食事内容(野菜がない)
ウォシュレットがない、湯船がない、水の温度が極端
靴そのまま、晩ご飯がちよっと早い、シャワーが10分、お弁当は果物入れる、洗濯が三日に一回

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。
自分が生活に必要な不可欠なものを出発前に事前に確認し、もっていくこと
コミュニケーションを多くする。自分から話しかける。
とにかくホストファミリーとコミュニケーションをとること。
シャンプーは持ってきた方がいいかもしれない。
分からないことがあったらちゃんと聞く。

パソコンは 持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。	その際に費用は かかりましたか。
はい	日本からSIMカードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本からポケットWi-Fiを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本からポケットWi-Fiを持参	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア /サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
ランゲージパートナーという日本語を専攻する学生とプライベートで交流する活動	大学内のユニポールというスポーツ施設。ボーリング場
スポーツ	ユニポールというスポーツ施設
ユニポールという運動施設でジムやバレー、バドミントンを放課後にしていました。	期間が短かったのでダニーデン外には行けませんでした。ダニーデンの観光名所は全て回ることが出来ました。費用は全てバスで移動していたので往復2ドルでした。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
英語の単語帳の確認
基本の持って行く荷物の準備、ホストファミリーへのお土産

留学前にしておけばよかったと思う準備
リスニング練習

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
どら焼き
抹茶のお土産
子供たちはサンリオのグッズを渡すと喜ばれました。また甘めの煎餅と金平糖を気に入って食べていました。
ハイチュウ

日本から持って行く必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
特になし	特になし
シャンプー、リンス、ボディソープ	折りたたみ傘、水筒
トイレトペーパー	シャンプー

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
クレジットカード(VISA)	クレジットカード(上限10万)・現金2万
クレジットカード	5万円
現金とクレジットカード	クレジットカード30万、現金3万
クレジットカード、プリペイドカード、現金	現金5万円分

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

住居費:ゼロ、食費:およそ70ニュージーランドドル
住居費 なし、食費 1万円
約5万
15ドルくらい

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

テキスト代:ゼロ、通学費:およそ35ニュージーランドドル
テキスト代 なし、通学費 1000円
約50ドル

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

およそ300ニュージーランドドル
4万円
お菓子、お土産等計40ドル
約6万

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

スピーキング、リスニング能力に劇的な向上はないものの、日常で話される英語を聞き慣れることができ、スピーキングの際に以前より自信を持って取り組めるようになりました。
自分から話しかけることができるようになってきた。単語をもう少し覚えるとスムーズに話せた。
語学力は少し上がった。初めの頃は2回ほど聞き返さないとわからなかったのが最後は一回で聞き取れるようになった。
ニュージーランド訛りの英語が当初よりも聞き取れるようになった
まだ難しかったがなんとか聞き取れるようになったり、それに対して簡単な受け答えもできるようにまで成長した。

留学前の目標とその達成度

留学前の目標は現地の風土、文化、現地の人々との交流を通して異国の文化を理解できるようになること。十分に達成できました。
現地の方と楽しく話せるくらいになるまで努力する。100%
ネイティブの方と現地で使われている言葉で話す。最後の週にホストファミリーと会話している時に達成できた。

まだ言葉が詰まる場面もあるがある程度話せた。

期間が短かったから短期間でできることはなんでもしようと思って張り切っていたが、それなりにうまくいかないこともあったり、英語が通じなかったりして難しかったけど、留学に行く前の自分よりは現地の方の英語がやっと聞き取れ出したり、それに対して自分も簡単な受け答えが出来るまでには成長した。

留学を通しての成長ポイント

ライティングの精度とスピードを向上させることができました。

リスニング能力が上がった。現地の方に自分から話せるようになった。

現地の方に自ら話しかける度胸

ニュージーランド訛りがわかること

積極的にはなす力。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前は英検1級に向けてライティング、リスニングに取り組みたいと思っていました。留学中は自分発信で感情や意見を表現する必要性を強く感じました。留学後、ライティングはスピーキングの土台になり、スピーキングはライティングの精度向上につながるのので、どちらのスキルも並行して行えるようになりたいと思います。

変わらず自分の英語がどれだけ通用するかのモチベーションが高かった。

ネイティブの方ともっとまともに話せるようになりたいともっと強く考えるようになった。

語彙力をもっと上げたいと思った

特にスピーキングは、グチャグチャでも話そうと思った。話せばなんとか伝わるし、勇気がつく。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

毎晩取り組んでいたエッセイライティングとその添削をもらったフィードバックを聞くとき。ランゲージパートナーと会話するとき。

ホストファミリーと最初の会話は全くできなかったが、時間が経つにつれて慣れてきた。

ホストファミリーと会話するときは絶対に集中して頭を使いながら会話していたので 100%の力を振り絞っていました。

ホストファミリーと喋る時

授業でみんなと話す時、ホストファミリーと自分のことや身の回りのことについて話したりきいたりするとき。

留学先大学の良かった点

施設が充実していること。教員が熱心に向き合ってくれたところ。受付スタッフの対応が丁寧なところ。

たくさんの学部があったのでたくさんの国からの人がいた。

先生が熱心

ジムの設備が整っている。

運動施設が本格的だった

留学生支援、サポートなど手厚かった